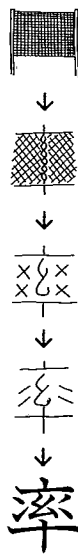


率

五年 11
筆順 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一
クソ ツツ・リツ
ひきひいる

成り立ち



飛んでいる鳥が引つかかるように仕組んだ「網」(かすみ網)の形を表した字です。

全体のつり合いを考えて、網を引っぱって張りますので、「引っぱる」という意味を表しました。「人を引っぱる」ことから「人をひきいる」という意味に使われるようになりました。この場合の音はソツ。【例】引率、統率、率先。

「全体のつり合いを考える」ことから、「全体から見たわり合い」という意味に使われます。音はリツ。【例】比率、倍率、確率、能率、利率。

同じ音の「卒」と同じ使い方もします。【例】率直(卒直)、率然(卒然)。

使い方

▽わたしたちは、担任の川本先生に引率されて、社会科見学に行きました。

▽ぼくは、きのう、思ったって部屋の整理をしました。本棚や机の引き出しなどを、きちんと片づけてみると、とてもすっきりとして、能率よく勉強ができるような気がします。これからも、時々、整理整頓するつもりです。

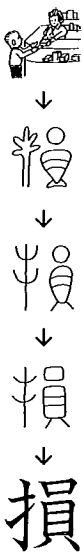
熟語例

- ▽引率(人をひきいて行くこと。)
- ▽統率(人々をまとめて、ひきいること。)
- ▽率先(人の先に立って行うこと。「率先して質問する」などというふうに、つかいます。)
- ▽比率(ある物を、全体と比べた時の割合。また、ある物を、別の物と比べたときの割合。「老人の人口に占める比率がふえている」などというふうに、つかいます。)
- ▽倍率(ある物が、別の物の何倍かというわり合い)
- ▽確率(ある事が起こったりするわり合い)
- ▽能率(ある時間内にできる仕事のわり合い)
- ▽利率(利息の元金に対するわり合い)

損

五年 13
筆順 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一
クソ ソン
そこひなるひねる

成り立ち



「貝」の形を表した「口」と、お金の意味を表した「貝」とを組み合わせた「員(年253)」は、「円(圓)」の本字で、「お金」という意味の字です。

損は「お金を手をつける」ことを表した字で、「お金がへる」こと、「そんなる」ことを表したものです。「そんなる」こと、「そこねる」ことという意味にも使われます。

「お金をへらす」【例】損金、損益、損得、損失。
「そんなる」【例】損害、損傷、破損。

使い方

▽季節はずれの大型台風が上陸して、日本各地に、大規模な損害が生じました。

▽交通事故で、両方の車が破損しましたが、幸い、乗っていた人は無事でした。

熟語例

- ▽損金(損をして、なくしてしまったお金。「損金は全部で一万円にのぼった」などというふうに、つかいます。)
- ▽損益(損と益。出費と収入。「損益を計算する」などというふうに、つかいます。)
- ▽損得(損と得。なくしたものと得たもの。「損得を考えないでやる」などというふうに、つかいます。)
- ▽損失(大事なものをなくすこと。「博士が亡くなったことは、医学界にとって重大な損失だった」などというふうに、つかいます。)
- ▽損害(災害や事故などで、物が損なわれること。)
- ▽損傷(物が損なわれ、傷つくこと。「脱線した列車の腹部が損傷した」などというふうに、つかいます。)
- ▽破損(こわれること。「校舎のガラスが、投石で破損した」などというふうに、つかいます。)